

## 農村工学技術研修の開催

技術移転部技術研修室

### 1. はじめに

今年度実施する農村工学技術研修のうち、7月までに実施予定の研修は全て計画通りに実施しました。ただし、7月に入り新型コロナウイルスの感染者が急増しており、9月以降開催予定の研修については、新型コロナウイルスに対する政府の対応方針（緊急事態宣言の発出等）を踏まえ、研修実施の可否を慎重に判断したいと考えております。

### 2. 農村工学技術研修（農村防災・減災技術指導者）の実施

5月23日（月）～27日（金）の期間、参加人数13名（国1名、府県：8名、土地連4名）で実施しました。

研修内容は、ため池決壊時の氾濫解析を行うソフト「SIPOND(エスアイポンド)」を使って氾濫解析を行い、その結果の妥当性と下流域の被災リスク等を検討した上で、GISソフトを用いて浸水想定区域図を作成する演習等を行いました。

なお、研修内容を即時に活かせるよう研修期間を梅雨等の出水期前の5月に実施することとしました。

### 3. 農村工学技術研修（ダム機能保全Ⅰ、Ⅱ）の実施

ダム機能保全Ⅰについては、5月31日（火）～6月3日（金）の期間、参加人数18名（国：11名、道県：6名、独法1名）で実施しました。研修内容は、ダムの関わる調査・設計・施工等の建設技術に関する講義を行いました。

ダム機能保全Ⅱについては、6月28日（火）～7月1日（金）の期間、参加人数9名（国：6名、道県：3名）で実施しました。研修内容は、堤体の安全管理、耐震性照査等に関する講義及び機能診断に関する現地実習等を行いました。

### 4. 農村工学技術研修（経済効果Ⅰ．理論）の実施

6月20日（月）～24日（金）の期間、参加人数20名（国6名、道県：5名、独法2名、土地連7名）で実施しました。

研修内容は、費用対効果分析、政策評価、効果計測手法、各種経済効果の算定等に関する講義等を行いました。

なお、本研修は、効果算定業務等を担当することとなる都道府県・土地連職員の受講希望者が多く、今回は定員の約5倍の応募がありました。現在はコロナ対策（ソーシャルディスタンス確保）として定員を20名に絞っておりますが、来年度以降は、新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、定員増について検討していきます。

### 5. 農村工学技術研修（用水計画と河川協議）の実施

7月6日（水）～15日（金）の期間、参加人数20名（国3名、県：10名、独法2名、土地連5名）で実施しました。

研修内容は、用水計画、河川協議、水路システム、河川水利行政等に関する講義、河川協議の実務に関する事例研究及び実践演習等を行いました。

本研修では、1週目(7/6~7/8)をWeb形式とし、研修生の負担軽減を図ったところですが、定員20名に対し2倍の40名の応募があり、半数が受講できない状況でした。そこで、落選した方にも1週目のWeb講義分を解放し視聴できるようにしました。この取組は大変好評で今後も続けていきたいと考えております。



ダム機能保全Ⅱ 現地実習状況